

作成日 年 月 日

栄養管理事例報告（小児栄養分野）

事例番号：	事例報告：新規提出・再提出・
介入期間： 年 月 日～ 年 月 日	症例介入：主担当者・副担当者・

<対象者（患者）情報>

1歳4か月女児

主訴：体重が増えない 診断：食物アレルギー（鶏卵）既往：アトピー性皮膚炎（4か月～）

【食物/栄養関連の履歴】

人工乳の使用歴はなく、母乳のみで育児し、月齢6か月頃から離乳食を開始。

【身体計測】

身長：78.0 cm (+0.20SD)、体重：8.0 kg (-1.70SD)、BMI：13.1kg/m²、BMI%ile 1.2、肥満度-17.5%

【抗原特異的 IgE 検査】

卵白 61.60UA/ml、オボムコイド 11.60 UA/ml、牛乳 0.35UA/ml 未満

【身体所見】

毛髪：脱毛・脱色なし、皮膚：両肘内側に乾燥と赤みのある湿疹あり（アトピー様）

<介入に至るまでの経過（栄養管理開始までの経過）>

周産期歴に問題なく出生。月齢4か月時にアトピー性皮膚炎を発症し、近医皮膚科で局所薬物療法にてコントロール中。これまで、人工乳の使用歴はなく、母乳のみで育児し、月齢6か月頃から離乳食を開始した。離乳食は母乳併用で、粥、野菜、果物から開始し、月齢8か月頃に牛乳入りスクランブルエッグを初めて食べた直後に蕁麻疹がでたため、卵と牛乳を控えた自己流の離乳食を続けていた。1歳2か月頃から母乳が出にくくなったことや、体重の増加量が鈍化したことなどから、保健所に相談したところ、アレルギー内科受診を進められ当院受診となった。当院での精査の結果、鶏卵アレルギーと診断され、栄養指導介入となった。

<栄養スクリーニングの状況（多職種からの紹介状況も含める）>

自己流の食物除去による体重増加不良（体重-1.70SD、BMI13.1 kg/m²）が考えられたため、食物アレルギーの栄養教育が必要と判断され、栄養指導介入となった。

栄養診断	# 1 経口摂取量不足 (NI2.1) # 2 食物栄養関連の知識不足 (NB1.1)
S	牛乳入りのスクランブルエッグを食べさせて蕁麻疹が出たので、それ以来牛乳は飲ませていません。 保健所の離乳食指導を受けたことがあります、食物アレルギーについての具体的な栄養相談は受けたことはありません。
O	【身体計測】 1歳4か月女児 身長：78.0 cm (+0.20SD)、体重：8.0 kg (-1.70SD)、BMI：13.1、BMI%ile 1.2、肥満度 -17.5% 【血液検査】 抗原特異的 IgE 検査 卵白 61.60UA/ml、オボムコイド 11.60 UA/ml、牛乳 0.35UA/ml 未満（牛乳負荷試験は次回外来時に計画） 【栄養食事調査】 離乳3回食（軟飯 30-40g/回）＋授乳 2-3 回（夜間と日中欲しがる時だけ） おやつはハイハイン 1 袋＋授乳 推定摂取エネルギー量：600-650Kcal/日（67-72Kcal/kg） 推定摂取たんぱく質量：10-15g/日 たんぱく質性食材：豆腐・白身魚・ささみミンチのみ。卵・牛乳（スクランブルエッグ摂取以降食べていない）・牛肉・豚肉摂取なし 【推定必要栄養量】 エネルギー：900Kcal/日（食事摂取基準より） たんぱく質：13～20g/日（食事摂取基準より）
A	身長+0.20SD、体重-1.70SD から急性の栄養障害が推定され、経口摂取量も必要エネルギー充足率約 70%である。 食物アレルギーに関する栄養指導歴はなく、自己流の食物除去を実施しており、食品摂取の多様性が限定的である。 ハイハイン摂取時の観察から摂食機能は同年齢児相当と考えられるが、実際の食形態は離乳後期相当で提供されている。 栄養診断の根拠（PES） # 1 経口摂取量不足 (NI2.1) W/H88.9%、必要エネルギー充足率 70%を根拠に、自己流の食物除去が原因となった、経口摂取量不足状態と栄養診断した。 # 2 食物栄養関連の知識不足 (NB1.1) 体重-1.70SD、食物アレルギーに関する栄養指導歴がなしを根拠に、自己流の食物除去が原因となった離乳食や除去食に関連する知識・技術の教育が必要な状態と栄養診断した。
P	Mx) 経口摂取量、身体計測値（身長・体重の SD スコア） Rx) エネルギー：900Kcal/日（食事摂取基準より）、たんぱく質：13～20g/日（食事摂取基準より）、体重 SD スコアの改善 Ex) 食物アレルギーに関する包括的栄養教育の提供（現時点では家族教育）

S: Subjective data (主観的データ)、O: Objective data (客観的データ)、A: Assessment (評価)、P: Plan (計画)

Mx: Monitoring plan (モニタリング計画)、Rx: therapeutic plan (栄養治療計画)、Ex: educational plan (栄養教育計画)

<栄養介入>

1) 目標栄養量

エネルギー：900Kcal/日（食事摂取基準より）

たんぱく質：13～20g/日（食事摂取基準より）

2) 栄養介入計画

1 経口摂取量不足（NI2.1）

[短期目標]

離乳食の増量ができる

軟飯量増量（30 - 40g→50g へ 以降漸増）

間食内容見直し（エネルギー密度の高いおやつ導入）

[中期目標]

乳製品の摂取ができる（牛乳負荷試験でアレルギーの有無が診断された後から開始）

[長期目標]

体重 SD スコアの改善

2 食物栄養関連の知識不足（NB.11）

[短期目標]

除去食・代替食について（卵・乳）理解できる

安全に食べられる範囲までの鶏卵摂取を継続できる

食品ラベルを適切に読むことができる

食物アレルギーの正しい情報の入手方法

[中期目標]

誤食予防と症状発症時の対応ができる

外食での注意点について家族・本人共に実践できる

[長期目標]

食物アレルギーの寛解

もしくは

食物アレルギーがあっても保育園・幼稚園等の集団生活に参加できる

3) 栄養介入の経過

初回介入時

除去食・代替食についての母の理解は良好であり「さっそくやってみます」と食事療法に前向きな発言も認められた。

1 か月後栄養指導時（牛乳負荷試験時）

適切に鶏卵と乳の食品除去を実施され、主食量（軟飯 50g）や間食の増量も認められた。

推定摂取量は 700 - 800kcal/日、身長 78.2 cm、体重 8.4 kg（-1.30SD）となり、摂取量、身体計測値ともに改善を認めた。

牛乳負荷試験は陰性であり、今後は鶏卵アレルギーに配慮しながら乳製品の摂取量を徐々に増やしていく方針となった。

母は負荷試験陰性ではあるが牛乳の解除にはやや抵抗があるとのことから、牛乳を含むビスケットなどの加工食品から開始し、徐々に摂取量を増やしていく方法を提案した。

加工食品の中には、鶏卵や乳製品の表記がわかりにくいものがあるため、食物アレルギーの食品表示について重点的に教育し、次回も栄養相談継続予定となっている。

また、2 歳までに保育園への入園希望があるため、入園に際して園からの希望があれば、栄養相談に同席してもらう機会を設定することも可能である旨を伝え、食物アレルギーがあっても安全に保育園の集団生活に参加できるようサポートする方針とした。

<栄養ケアプロセスの総合的評価>

本児の家族は食事療法に対する理解良好で、適切な除去食によって成長率の改善が認められていることから、栄養教育が有効であったと考えている。

今後の課題は、牛乳・乳製品の導入に対して、家族特に母の不安が強く、乳の制限解除となっても乳製品の提供には消極的であることが挙げられる。

母はまもなく仕事復帰を予定しており、保育園への入園を控えていることから、不要な食品除去のまま集団生活を迎えることの無いように、母の不安を傾聴しながらも、適切な情報提供と栄養カウンセリングを用いて、乳製品の摂取再開を促していく方針である。